

景観マガジン 埼玉スタイル

# S.Style no.3

蕨市五歴史民俗資料館

SUMIKA  
MIURA

インタビュー：三浦 寿美花さん



### 1877年築、明治時代に織物の買継商の建物として利用された、蕨市立歴史民俗資料館分館

古くから中山道の宿場町として栄え、機（はた）織物のまちとして経済の基盤を築き、市域面積が5.11平方キロメートルと小さく、人口密度が最も高い市として、日本一のコンパクトシティを標榜する蕨市。

景観に対する取り組みも盛んで、平成6年には、中山道沿道の住民による「中仙道蕨宿まちなみ協定」を定め、歴史や文化にふさわしいまちなみとして維持や魅力の向上を図り、令和3年11月には蕨市景観条例施行とともに、景観行政団体へと移行し、現在、景観計画も策定中である。

今回は、景観行政の中心で、市民や関係者と一体となり、まちづくりを積極的に推進している、蕨市役所のキーパーソン、三浦 壽美花さんにインタビュー。

市民に溶け込み、フレッシュな感性で粘り強く業務に取り組む、次代を担う若き技術者が、今考えていることとは…。

### 〈蕨市都市計画マスタープラン策定に、最初から最後まで携われたのは大きな収穫。〉

■これまで経験してきた業務について教えてください。

■私は、平成30年(2018年)に入庁し、4年目になります。まちづくり推進室に配属され、担当は都市計画です。1年目は都市計画に関する業務や部内の庶務関係などを担当し、2年目からは当時、まだ蕨市では策定されていなかった、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、景観条例、景観計画などの



蕨市立歴史民俗資料館分館の庭園（右から2人目が三浦さん。埼玉県とVR映像撮影中）

策定について、メイン業務として担当させて頂いています。

具体的な業務としては、何から何までというか、例えば、現在策定中の景観計画に掲載している写真は、私が撮影したものです（笑）。

3つの計画策定にあたっては、外部へ業務を委託していますが、その委託内容は計画の枠組みや全体構成といった骨組み部分だけであり、あとの肉付けや地域の状況などはすべて直営で行っておりまして、実は本当に大変でした。

### 〈「蕨愛」が強い、多くの市民の方がいらっしゃるのは心強い。〉

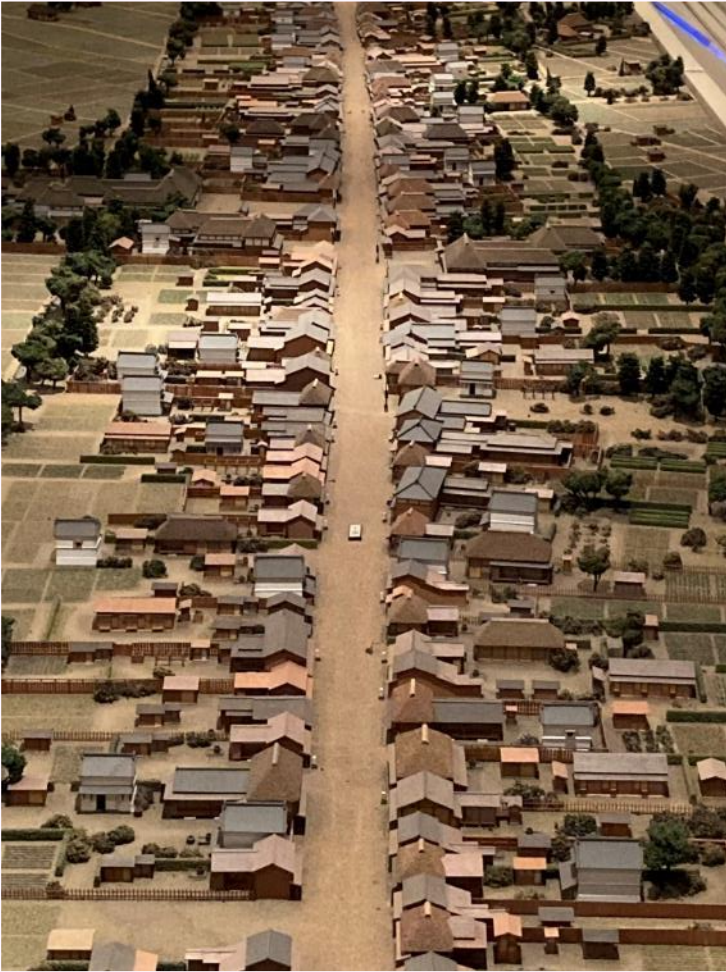
■これまで業務を経験された中で、三浦さんが考える、蕨市の課題は何ですか？

■蕨市には、もともと地域住民の方が主体となっている「中仙道蕨宿まちなみ協定」があります。

「中仙道蕨宿まちなみ協定」は、あくまでも地域住民の方々が主体となって作られた協定であるため、なかには協定にご協力いただくことが難しい案件もありました。

このように、これまでは、どれだけ協定に協力していただけるかが、建築主の方の中山道のまちづくりへの理解やその温度感に依存してしまうことが課題でした。

## 蕨宿のジオラマ（蕨市立歴史民俗資料館）



■その課題に対して、どのようなアプローチをされていますか？

■実は、都市計画マスタープランの策定の際、市民の方と意見交換会を実施させて頂いたのですが、皆さん「蕨愛」が強い方が多い印象を受けました。

私の印象では、行政側から市民の皆さんに何かをお尋ねすると、必ずお返事を頂けます。

私はそのことが課題を解決していくために大変恵まれた環境であると思いますし、まちづくりに携わるものとして、非常に心強く思います。

特に、中山道の今残っている建物の保全や活用については、先ほど申し上げました「蕨愛」の強い市民の方々のご協力を頂きながらやっていきたいですし、やっていけそう、というイメージはあります。

「中仙道蕨宿まちなみ協定」を生かしつつ、景観計画の中で、中山道の区域を「重点地区」に位置付けることで、今まで行政が主体となって関わるのが難しかったことについて、根拠を持って関わるできるようになりました。

先述いたしました、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、景観条例、景観計画といった法や条例、条例

に基づく計画といった、一貫した体系を位置付けることで、市民、行政、関係者が納得のいく関係性の中でまちづくりを進めることができるようになりつつあります。

この取り組みにより、将来的には中山道がもっと魅力的に、もっと賑わい、人が集まることができたら素晴らしいと思います。

■繰り返しになりますが、景観計画に中山道を「重点地区」に位置付けるということは、中山道がやはり最重要な地区ということなのではないでしょうか？

■蕨市は古くから中山道の宿場町として栄えてきたことから、「重点地区」に位置付けているのは中山道だけですが、他の地域についても住宅地、商業・業務地などに分け、それぞれ守って頂きたい景観形成基準を定めています。

入庁1年目の都市計画に関する業務の経験による市域全体の把握から、2年日以降の景観計画における重点地区の取り組みといった、全体から個別の地区まで、広く俯瞰した視点から実際の地区での個々の建物レベルまでの視点を持つことができたことは非常に幸運でした。業務にかかわるタイミングがすごく良かったと思っています。



1612年に開設された蕨宿の本陣跡

## 〈学生時代は、橋梁を対象に地震時の応答特性についての研究、 蕨市入庁後は、住んでいる人を対象とした仕事〉

■ここまでのお話を伺った感じでは、技術職の香りがプンプンします（笑）。

■はい、私は土木職です。大学は工学部で、建築と土木の両方の勉強をしていました。大学院にも入学したのですが、1年生の終わりごろに蕨市の採用試験でご縁をいただいたため、大学院を辞めて、蕨市に入庁しました。大学院はどうしても行きたくなくなったら、あとで行けるかな、と（笑）。

■そうだったのですね！学生時代の勉強や研究は、今の仕事につながっていますか？

■実は大学では構造系で、「橋梁」の研究をしていました。

具体的には、卒業研究では、大規模橋梁の地震応答特性に取り組みました。入庁後は、都市計画や景観の担当になりましたが、正直、初めて関わる分野でした。

学生時代は、研究の対象は土木構造物である橋梁で、何時間も解析を行い、数字やグラフばかり見つめていて、こういう結果が出たからどういう風に橋梁が挙動した、こういうグラフだからこういう特性がある、という感じでした。

入庁後はそれとは大きく異なり、対象が物から人になりました。これまでの業務を通して、都市計画やまちづくりは、住んでいる人のことを考えることなのかなと思っています。そこが学生時代までと大きく違うところだと感じます。

もちろん、大学時代に取り組んでいた橋梁の研究についても地震時の安全性を確保することで、結果として人の安全や、その安全確保により、人の幸せを維持できると思いますが、社会人になってから、対象は人であることを痛感しています。

社会人としては当たり前なのかもしれませんが、仕事はすべて「住んでいる人が対象である」ことを今後も意識していこうと思います。

■入庁されてから、苦勞されたことはありますか？

■入庁後は、窓口や電話対応で、間違った内容を伝えてはいけないというプレッシャーから、最初のうちは、対応のたびに「どうしよう、どうしよう…」という感じだったのですが、今は、窓口いらしたお客様や市民の方とスムーズに話せるようになり、お困りのことや要望について、しっかりと受け止めることができるようになりました。



建物の裏手の用水路に架ける、徳丸邸の「はね橋（復元）」  
（左が三浦さん。埼玉県とVR映像撮影中）



1931年築、河内屋鈴木薬舗（中仙道蕨宿景観建築物）

### 〈中山道の色彩基準は現場における努力の賜物、地元の方々も協力的で感謝。〉

■市民の方にはどのような形でご協力頂いているのですか？

■はい。具体的には、今回、景観計画を策定する際に、重点地区の色彩基準（使用してはいけない色彩の規制範囲）を定める際に、中山道沿道に設置していた「ようこそ蕨宿へ！」と書かれた紺色ののぼり旗等の色彩は、中仙道蕨宿のテーマカラーとして許容する方向でしたが、具体的な色彩の数値、いわゆるマンセル値（色相、明度、彩度といった数値で表す色彩数値の一つ）が不明でした。

それでここからは人海戦術なのですが、そののぼり旗のうち、なるべく新しい旗を探すため、中仙道蕨宿まちなみ協定委員会の会長さんや委員さんに相談し、最終的には酒屋さんに旗をお借りして、マンセル値を判断する色サンプルと見比べて、のぼり旗の紺色のマンセル値を割り出しました。このようにして割り出した紺色を、規制範囲の基準から除外することとしました。

これは、地元の方に多大なご協力をいただいて、のぼり旗のマンセル値を何種類もの色サンプルと見比べて割り出すなど、地元の方々と行政とが一体となって色彩基準を定めることができた、という点で、私にとっては、非常に勉強になる経験でした。

この基準は、わかりやすく言うと「建物について、屋根が黒系統で、壁が茶系統または無彩色であることが絞られ決定された上で、更に紺色のある範囲を除外、つまり、紺色のある範囲を許容し、緩和する基準」といったところでしょうか。



左：北町交番（中仙道蕨宿まちなみ協定に沿ったデザイン）

右：集合住宅（蕨市景観計画に沿った色彩等）

この作業と同時期に建築される飲食店さんにもそのルールに協力して頂くなど、皆様のご協力のおかげで建築物が落ち着いた色彩になり、中山道のまちなみに溶け込んだ建物になっていると感じます。

そのほか、集合住宅の建築においても、「今、この色彩基準を作っています」と説明すると、基準に沿って建築して頂けるなど、景観計画が策定される前でも協力して頂くことができ、本当にありがたいです。

■今までの話を伺い、三浦さんは今、仕事について、とても充実している感じがします。

■はい、充実しています（笑）。

自分でも、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、景観条例、景観計画など、それまで蕨市になかったものを最初から最後まで、策定まで経験できることは本当に貴重な経験だと思っています。

景観計画は2022年4月に策定予定で、半年の周知期間において、10月から届出制度をスタートする予定です。

### 〈市民サービスの向上のため、改善したいことはある。〉

■業務上、ここを改善したら良いなど、お考えはありますか？

■市民サービス向上の点で、改善点はあるかと思います。

他の市では、窓口に来られる方用の都市計画に関する情報システムが備わっているようです。そのシステムによって都市計画道路の位置や、用途地域などの基本的な事項が確認でき、お伝えすることができます。

市民サービスのためにも、蕨市にもそれがあればいいのになと思います。窓口のシステムでなくてもホームページ上でも、そういう市民サービスの向上につながることであればと切に思います。



雰囲気のある石畳の歩道部

■新型コロナウイルスの感染拡大は、業務に影響がありましたか？

■結論から言うと、すべての仕事が半年後ろにずれた感じでした。

都市計画マスタープラン、立地適正化計画、景観条例、景観計画を策定するにあたり、市民の方の意見を伺うこととしていましたが、感染拡大防止のために、当初予定していた市民意見交換会を、半年ずらすことになりました。

オンラインでの開催も検討はしたのですが、蕨市役所自体のシステムの問題や、参加する市民の方々のオンライン環境もあるので、やはりオンラインではなく、安全な時期を選んで、当初の予定通り、対面で開催いたしました。

ただ、計画案に対する意見を伺うための都市計画審議会は一部書面開催となりました。

また、市役所内で、コロナ関係の給付金業務に人員を増員する時期があり、課内からも派遣され、今まで担当していなかった業務も兼務することになるなどの影響もありました。それは、結果として自分にとっては勉強するいい機会になりました。

■ポジティブな考えですね！

■今はとても充実しています！気分はマルな感じです。

\*\*\*\*\*

聞き手、編集：埼玉県都市整備部田園都市づくり課 細田 隆

三浦 壽美花（みうら すみか）

1994年生まれ。筑波大学理工学群工学システム学類卒業

同大学院に入学するも修了を待たずして、蕨市役所に入庁、技術分野の職員（土木職）として、それまで未策定であった、蕨市都市計画マスタープラン、蕨市立地適正化計画、蕨市景観条例、蕨市景観計画の策定に精力的に取り組む。

現在、蕨市都市整備部まちづくり推進室技師。

趣味はゴルフ、パン・ケーキ作り。休日は愛犬と散歩をするなどゆったりと過ごしている。



中山道のまちづくり <https://www.city.warabi.saitama.jp/shisei/machidukuri/nakasendo/index.html>

蕨市立歴史民俗資料館 <https://www.city.warabi.saitama.jp/shogaigakushu/bunka/shiryokan/index.html>

わらび文化財マップ <https://www.city.warabi.saitama.jp/shisei/machidukuri/nakasendo/index.html>

景観マガジン 埼玉スタイル S.Style no.3

発行：埼玉県都市整備部田園都市づくり課 2022年2月

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3-15-1